熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2025.9.16
第 300号
発行 入試・広報課

４年次生 胸張って卒研発表会

リハビリテーション学科理学療法学専攻と作業療法学専攻の卒業研究発表会が４日（木）、医学検査学科は８日（月）に行われ、スーツ姿の４年次生が学びの集大成ともいえる研究の成果を発表しました。言語聴覚学専攻の発表会は11月以降に予定されています。（NL編集部）

理学療法学専攻

理学療法学専攻は、ポスターセッション形式での発表会。会場となったアリーナには２～５人のグループで作成した18のポスターが並びました。

準備を整えた４年次生のもとに、SGごとに分かれた３年次生が訪れると、それぞれ熱心に研究内容を報告。発表内容は、ADHD病態や高齢者の健康意識、階段昇段、音楽と運動の関係についてなど多岐にわたりました。発表者と傾聴者の距離の近さもあってか、活発な質疑応答が行われていました。

「研究中にうまくいかないこともあったが、無事にまとめられてほっとした」「伝えることの難しさや専門用語の理解が足りないと自覚するきっかけになった。もっと理解を深めたいと感じた」と４年次生。久保下亮専攻長は「発表を聞いてとても心強く感じた。それぞれのポスターも良くできているので、ぜひ一歩踏み出して学会発表にもチャレンジしてほしい」と学生たちの背中を押していました。

後輩らを前にして研究成果を発表

作業療法学専攻

発表後は緊張が解け、全員ほっとした表情に

作業療法学専攻は、2207・2208講義室Mの２会場で、８グループ、39人が発表に臨みました。母親の育児ストレスや声掛けの種類とモチベーションの関連、フレイルと社会参加に関する研究など幅広い演題が並び、発表者は堂々と研究の成果を報告。その後の質疑応答も活発に行われました。

発表を終えたある学生は「緊張したが、無事に終わってホッとした。ほかのグループの発表を聞いて、研究方法やまとめ方に違いがあり、とても勉強になった」と話していました。山野克明専攻長は、「研究は自分たちだけではなく、患者さんや日本、世界中に生かしてもらうためのもの。話を聞いてもらう、わかってもらうためにはどうすればいいか、今回の経験をもとに考え、生かしてほしい」と学生たちにエールを送りました。

医学検査学科

医学検査学科の卒業研究発表会は、50周年記念館で開かれ、４年次生112人（16SG）により10分(うち質疑応答３分)の持ち時間で19演題の研究内容が披露されました。

冒頭、竹屋元裕理事長・学長が、緊張した学生たちにリラックスしてもらおうと全員に体を伸ばすよう促す場面も。その後「発表するだけではなく、他のグループの研究に対して質問をし、少しでも疑問に思ったことを解決させてほしい。頑張ってください」とエールを送りました。

発表を見守った上仲一義学科長は会の最後に学生や教職員の労をねぎらい、「基礎的な研究から、実用化や国家試験を意識した研究があり、とても有意義だった。研究のように、わからないことに対して納得するまで向き合おうとするプロセスは社会に出てからも武器になる。この姿勢を忘れないでほしい」と話していました。

発表前に全員で「のび～」。リラックスして本番へ

健康・スポーツ
教育研究センター
レポート

高校生の競技力向上と障害予防に貢献

「熊保スポーツ・ラボ」スタート

各種測定や解析 学生に実践の機会

体力測定会「熊保スポーツ・ラボ」を８月下旬、本学アリーナで実施しました。熊本県内の高校生アスリートを対象に健康・スポーツ教育研究センターが本年度から取り組んでいる「熊保スポーツプロジェクト-for Youth-」の一環。「熊保スポーツ・ラボ」は高校生アスリートの身体能力を可視化し、長所と短所を伝えることで、競技力向上や障害予防に貢献することを目的としており、今回が１回目の開催です。

第１弾となる21日（木）、22日（金）の両日は、熊本西高ラグビー部の35人が参加しました。センターでは、柔軟性テストや筋力測定、動作解析、アジリティテストなど９項目を用意し、教員３人の指導の下、理学療法学専攻の２～４年生24人と大学院生５人が測定にあたりました。また、27日（水）、28日（木）の第２回は熊本中央高男子バドミントン部の19人が来訪。大学院生４人を含む39人の学生が対応しました。

毎回の「ラボ」は、学生にとって貴重な実践の機会となりました。関節可動域測定では３年次生が主体となって計測にあたり、これまで講義で学んだ内容を実践。２年次生は先輩が正確に測定する姿を見て測定の実際を学び、臨床実習を経験した４年次生は主担当の測定の他に後輩の測定の補助や他の項目の補助など、オールラウンドに活躍していました。（健康・スポーツ教育研究センター　中村祐貴）

ラグビー部員に下肢伸展挙上テストを実施する学生たち

バドミントン部員にウォーミングアップ（体幹回旋）の指導をする学生

院生17人 研究手法や進捗状況など紹介

修士論文中間発表会

大学院の修士学位論文中間発表会が５日（金）、1304講義室Mであり、17人の大学院生が、緊張した面持ちで研究の進捗状況などを発表しました。

登壇したのは臨床検査領域２人、リハビリテーション領域12人、看護領域の３人。１人20分（発表15分、質疑応答５分）の持ち時間で、「医薬品製造業者等における不正製造発生予防への行動経済学的側面からのアプローチ」「失語症者のコミュニケーション障害が日常生活の活動に与える影響」「若年男性の食に関する価値観と食行動に関する調査研究」など、各自が研究の背景や研究計画、手法、現在の進捗状況を紹介しました。発表に続く質疑応答では、教員側から質問だけでなく、研究や発表へのアドバイスも数多く飛び出し、会場は終始熱気にあふれていました。

発表を終えた院生は「取り掛かるタイミングが遅れたため、時間に追われた。今日頂いた先生方からの質問やアドバイスをもとに、完成させたい」「質問を通して、もっとわかりやすく説明する必要があると感じた。ほかの院生の発表を見て、学んだことを次回に生かしたい」と、意気込みを語っていました。前田ひとみ研究科長は、「ステップを踏んでしっかりと内容をまとめて発表出来ていたし、質問にも的確に答えていた。これからどう発展していくか楽しみ。また大学院１年生も先輩たちの姿を見て頑張ってほしい」と話していました。（NL編集部）

活発な質疑応答があった修士学位論文中間発表会の会場

推薦型選抜対策　予備校講師が指導「チャレンジ熊保大！」

本学の推薦選抜対策講座「チャレンジ熊保大！」が７日（日）、50周年記念館で開催されました。

学校推薦型選抜（公募）の筆記試験対策として毎年開催されています。今回は、同伴者を含めて265人（うち高校生は187人）が参加。熊本県内の人気予備校「壺溪塾」講師の内博文氏（英語担当）、瀬井裕規子氏（国語担当）、淵上智城氏（数学担当）が過去問題を中心に指導にあたりました。

参加した生徒からは、「とてもためになったし、充実した時間を過ごせた。入試に向けてもっと頑張ろうと思った」（宇土高校）、「解説がわかりやすく、対策の仕方を学べた」（必由館高校）など、これから受験に向けて気持ちを高めていこうとする意気込みが伝わってきました。同日は、同伴した保護者などのために、大学説明会や大学見学ツアーを企画。熊保大の魅力を感じていただきました。

（入試・広報課）

講師の解説に集中して耳を傾ける参加者たち

銀杏アラカルト

健闘をたたえ合う本学の参加者たち

■６年ぶり私大協ボウリング大会　コロナ禍による中断で６年ぶりの開催となる第46回熊本県私立大学協会親善ボウリング大会が６日（土）、熊本市のスポルト熊本であり、本学からも教職員７人が出場しました。結果は、８校中４位と大躍進、大会後の懇親会も終始和気あいあいとした雰囲気で、他校の教職員の皆さんとの親睦を深める場となりました。表彰式では、個人成績１位にあたるHG（ハイゲーム）賞を獲得する一方で、本学としては４回連続となるBB（ブービー）賞の表彰も受けました。来年は更なる躍進を目指したいと思います。（総務課）

インフォメーション

週間行事予定（９月16日～９月22日）	
９/17（水）	学校法人銀杏学園理事会
９/19（金）	第１回セキュリティ研修会